

広島県子供の生活に関する実態調査（東広島市分）

広島県では、今後の子供の貧困対策における効果的な支援のあり方を検討するため、県内全市町と連携して、県全体の子供の生活実態や学習環境等について調査している。小学校5年生、中学校2年生とその保護者を対象とした調査の東広島市の結果は、次のとおりである。

調査の概要

区 分		小学校5年生の家庭	中学校2年生の家庭
調査対象者数	子 供	988人 【県：12,522人】	487人 【県：12,451人】
	保護者	988人 【県：12,522人】	487人 【県：12,451人】
有効回答数 (回答率)	子 供	762人 (77.1%) 【県：8,520人 (68.0%)】	446人 (91.6%) 【県：7,746人 (62.2%)】
	保護者	756人 (76.5%) 【県：8,591人 (68.6%)】	452人 (92.8%) 【県：7,762人 (62.3%)】
調査対象者		小学校5年生とその保護者，中学校2年生とその保護者	
調査方法		無記名。密封調査。	
調査時期		平成29年7月	

【本調査における「生活状態」の取り扱いについて】

本調査では、子供の貧困状態を世帯の所得額だけでなく家庭環境全体で把握すべきであると考え、次の3つの要素に基づいて以下のように分類した。（詳細は別紙のとおり）

① 低所得

等価世帯所得※1が、厚生労働省「平成28年国民生活基礎調査」から算出される基準※2未満の世帯※3

※1 世帯所得（公的年金など社会保障給付を含めた世帯所得）を世帯人数の平方根で割って調整した所得

※2 厚生労働省「平成28年国民生活基礎調査」（所得は平成27年値）の世帯所得の中央値（428万円）を、平均世帯人数（2.47人）の平方根で除した値の50%である136.2万円

※3 低所得世帯の割合は、世帯所得の把握の方法や、可処分所得ではなく当初所得を用いている点などの違いがあるため、厚生労働省「平成28年国民生活基礎調査」で公表されている「子供の貧困率」（13.9%）と比較できるものではない。

② 家計の逼迫

経済的な理由で、公共料金や家賃の滞納、食料・衣類を買えなかった経験など7項目のうち、1つ以上該当

③ 子供の体験や所有物の欠如

子供の体験や所有物などの15項目のうち、経済的な理由で欠如している項目が3つ以上該当

生活困窮層	2つ以上の要素に該当
周 辺 層	いずれか1つの要素に該当
生活困難層	生活困窮層 + 周辺層
非生活困難層	いずれの要素にも該当しない

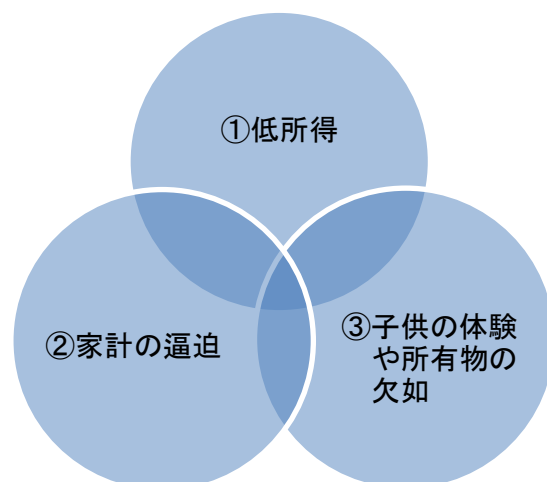
「生活困難層」等の定義について

●本調査では、「生活困難層」等を以下の3つの要素に基づいて分類した。

①低所得	③子供の体験や所有物の欠如
<p>等価世帯所得が厚生労働省「平成28年国民生活基礎調査」から算出される基準未満の世帯</p> <p><低所得基準></p> <p>世帯所得の中央値 428万円 ÷ $\sqrt{\text{平均世帯人数 (2.47人)} \times 50\%}$ = 136.2万円</p>	<p>子供の体験や所有物などに関する次の15項目のうち、<u>経済的な理由</u>で、欠如している項目が3つ以上該当</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 海水浴に行く 2 博物館・科学館・美術館などに行く 3 キャンプやバーベキューに行く 4 スポーツ観戦や劇場に行く 5 遊園地やテーマパークに行く 6 毎月おこづかいを渡す 7 毎年新しい洋服・靴を買う 8 習い事（音楽，スポーツ，習字等）に通わせる 9 学習塾に通わせる（又は家庭教師に来てもらう） 10 お誕生日のお祝いをする 11 1年に1回くらい家族旅行に行く 12 クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる 13 子供の年齢に合った本 14 子供用のスポーツ用品・おもちゃ 15 子供が自宅で宿題（勉強）をすることができる場所
②家計の逼迫	
<p><u>経済的な理由</u>で、公共料金や家賃を支払えなかった経験や食料・衣類を買えなかった経験などの7項目のうち、1つ以上に該当</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 電話料金 2 電気料金 3 ガス料金 4 水道料金 5 家賃 6 家族が必要とする食料が買えなかった 7 家族が必要とする衣類が買えなかった 	

◆生活困難層（困窮層・周辺層）、非生活困難層

生活困窮層	2つ以上の要素に該当
周辺層	いずれか1つの要素に該当
生活困難層	困窮層 + 周辺層
非生活困難層	いずれの要素にも該当しない



主な調査結果

1 生活困窮の状況

「低所得」や「家計の逼迫」、「子供の体験や所有物の欠如」のうち2つ以上に該当し、生活困窮層にあると思われる家庭が小学校5年生では約11%、中学校2年生では約8%であった。また、いずれか1つに該当するその周辺層まで含めた生活困難層にある小学校5年生の家庭は約27%、中学校2年生の家庭は約29%であった。

区 分	小学校5年生		中学校2年生	
	東広島市	広島県	東広島市	広島県
生活困窮層	10.7%	9.3%	8.1%	9.6%
周 辺 層	16.2%	16.4%	21.0%	18.2%
生活困難層	27.0%	25.7%	29.0%	27.8%
非生活困難層	73.0%	74.3%	71.0%	72.2%

生活困難層の状況を世帯構成別にみると、ふたり親の家庭に比べてひとり親の家庭で生活困窮層が多く、小学校5年生ではひとり親家庭の約24%、また、中学校2年生ではひとり親家庭の約35%が生活困窮層となっている。

(世帯構成別の生活困難層の内訳)

区 分	ふたり親の家庭		ひとり親の家庭			
	東広島市	広島県	東広島市	広島県		
生活困難層	生活困窮層	小学校5年生	8.9%	6.8%	23.9%	29.8%
		中学校2年生	4.2%	6.7%	34.1%	28.9%
	周辺層	小学校5年生	13.7%	14.8%	33.8%	30.0%
		中学校2年生	19.2%	16.4%	27.3%	31.0%
非生活困難層	小学校5年生	77.4%	78.4%	42.3%	40.3%	
	中学校2年生	76.6%	76.8%	38.6%	40.1%	

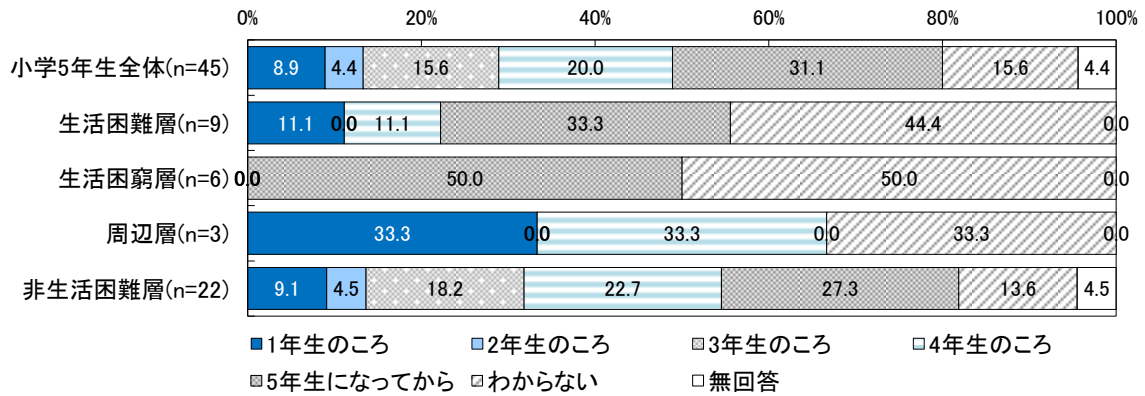
※端数処理の関係で、合計が100.0%とならない場合がある。

2 子供の学び

①学校の授業の理解度

【授業がわからなくなった時期】

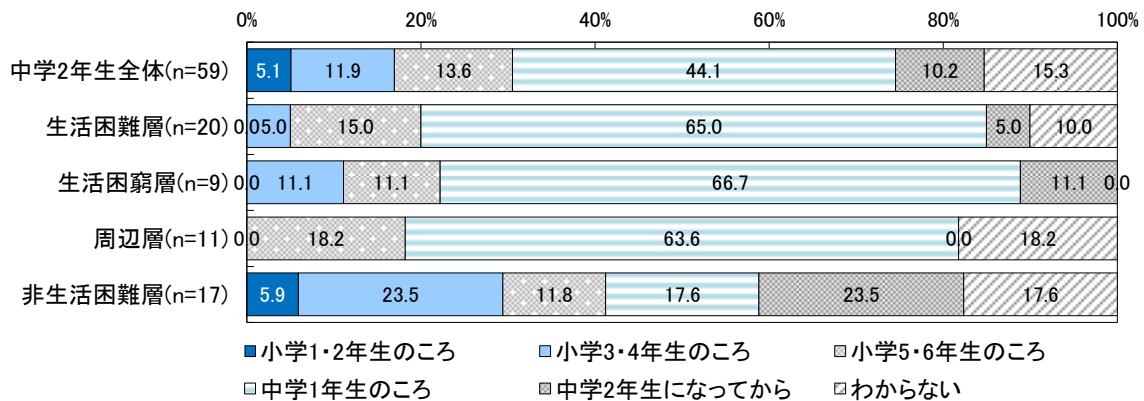
(小学5年生)



授業がわからなくなった時期について、全体では「5年生になってから」と回答した人の割合が31.1%、「4年生のころ」と回答した人の割合が20.2%となっている。

生活困難層では「5年生になってから」と回答した人の割合が33.3%となっている。

(中学2年生)

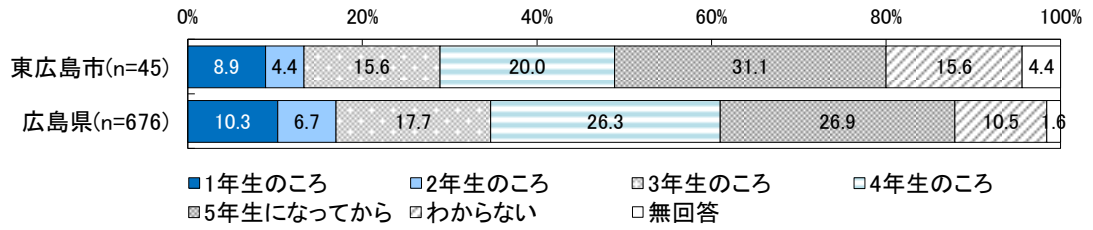


全体では「中学1年生のころ」と回答した人の割合が44.1%となっている。

生活困難層では「中学1年生のころ」と回答した人の割合が65.0%であり、非生活困難層と比較すると高くなっている。

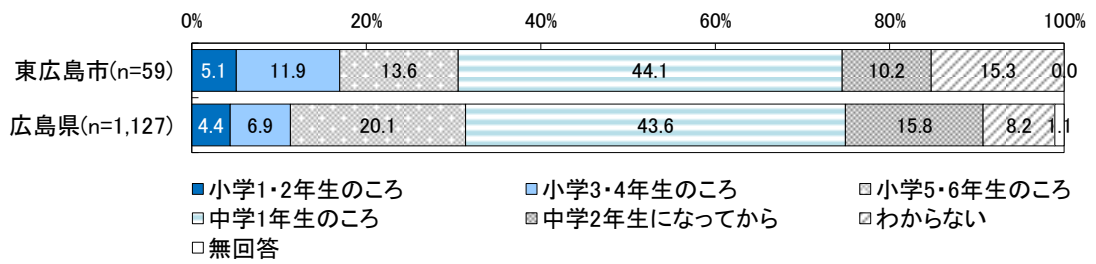
【授業がわからなくなった時期（広島県との比較）】

（小学5年生）



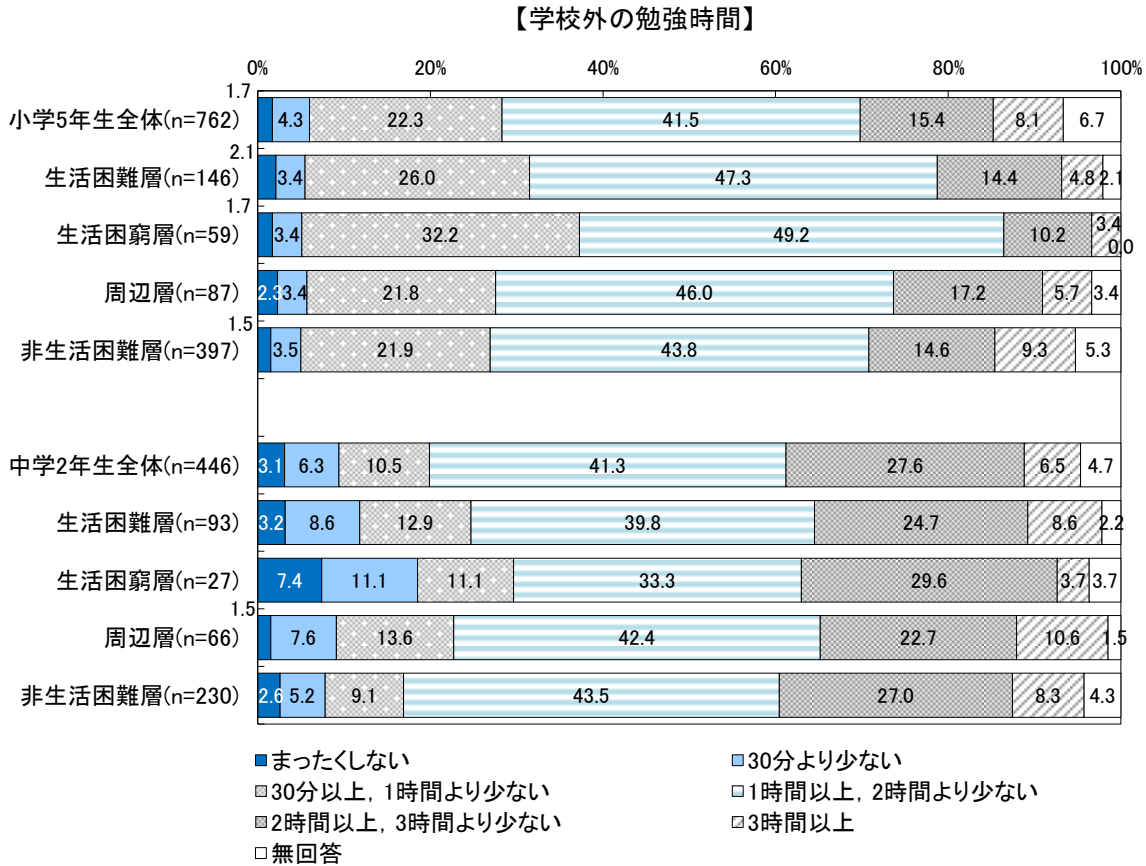
広島県と比較すると、「5年生になってから」と回答した人の割合が高くなっている。

（中学2年生）



広島県と比較すると、「小学5・6年生のころ」、「中学2年生になってから」と回答した人の割合が低く、「わからない」と回答した人の割合が高くなっている。

② 学校外での学習・勉強の状況



[小学5年生]

学校外の勉強時間について、全体では「まったくしない」と回答した人の割合が 1.7%、『1時間以上』（「1時間以上、2時間より少ない」＋「2時間以上、3時間より少ない」＋「3時間以上」）と回答した人の割合が 65.0%となっている。

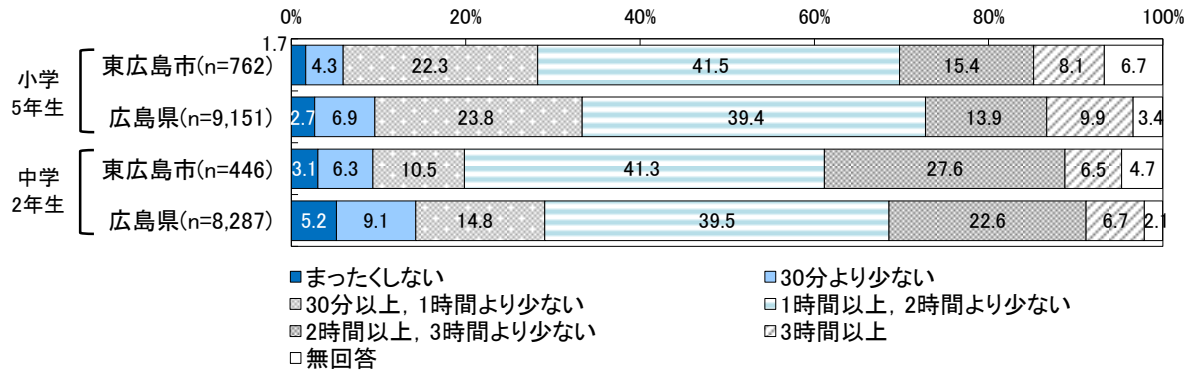
生活困難層では「30分以上、1時間より少ない」と回答した人の割合が 26.0%であり、非生活困難層と比較すると高くなっている。

[中学2年生]

全体では「まったくしない」と回答した人の割合が 3.1%、『1時間以上』と回答した人の割合が 75.4%となっている。

生活困難層では、『1時間より少ない』（「まったくしない」＋「30分より少ない」＋「30分以上、1時間より少ない」）と回答した人の割合が 24.7%であり、非生活困難層と比較すると高くなっている。

【学校外の勉強時間（広島県との比較）】



[小学5年生]

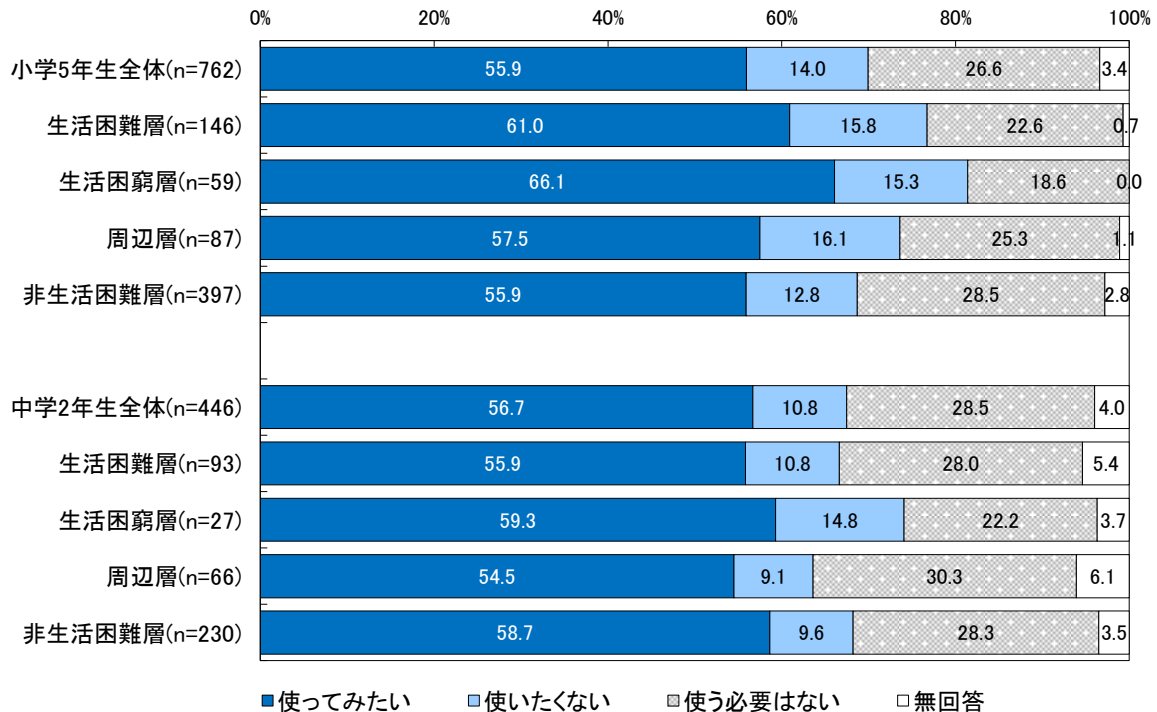
広島県と比較すると、大きな差はみられない。

[中学2年生]

広島県と比較すると、「2時間以上、3時間より少ない」と回答した人の割合が高くなっている。

③ 学習関連の支援施策の利用意向

ア 家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所



[小学5年生]

家で勉強できないとき、静かに勉強ができる場所について、全体では「使ってみたい」と回答した人の割合が55.9%、「使う必要はない」と回答した人の割合が26.6%となっている。

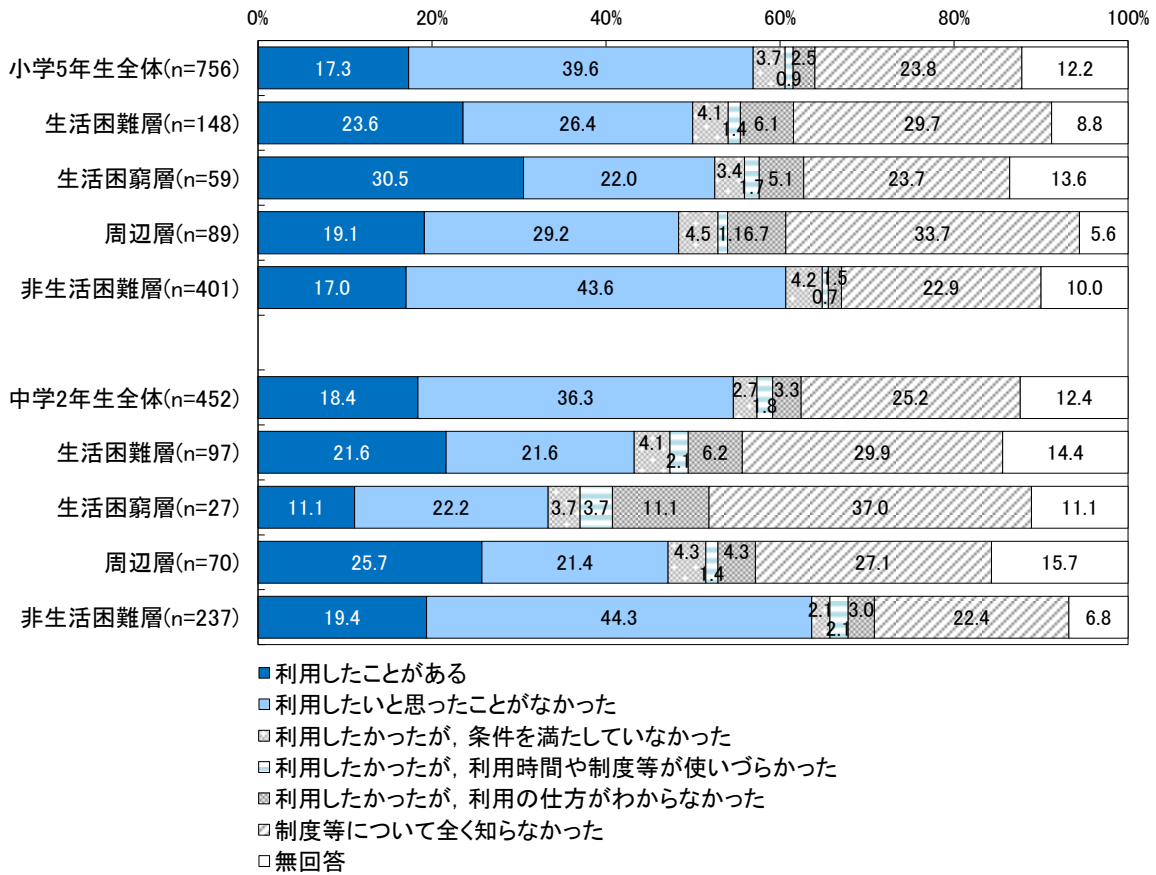
生活困難層では「使ってみたい」と回答した人の割合が61.0%であり、非生活困難層と比較すると高くなっている。

[中学2年生]

全体では「使ってみたい」と回答した人の割合が56.7%、「使う必要はない」と回答した人の割合が28.5%となっている。

生活困難層では「使ってみたい」と回答した人の割合が55.9%であり、非生活困難層と比較すると大きな差はみられない。

イ 学校が実施する補講（学習支援）



[小学5年生]

学校が実施する補講（学習支援）について、全体では「利用したいと思ったことがなかった」と回答した人の割合が 39.6%、「制度等について全く知らなかった」と回答した人の割合が 23.8%となっている。

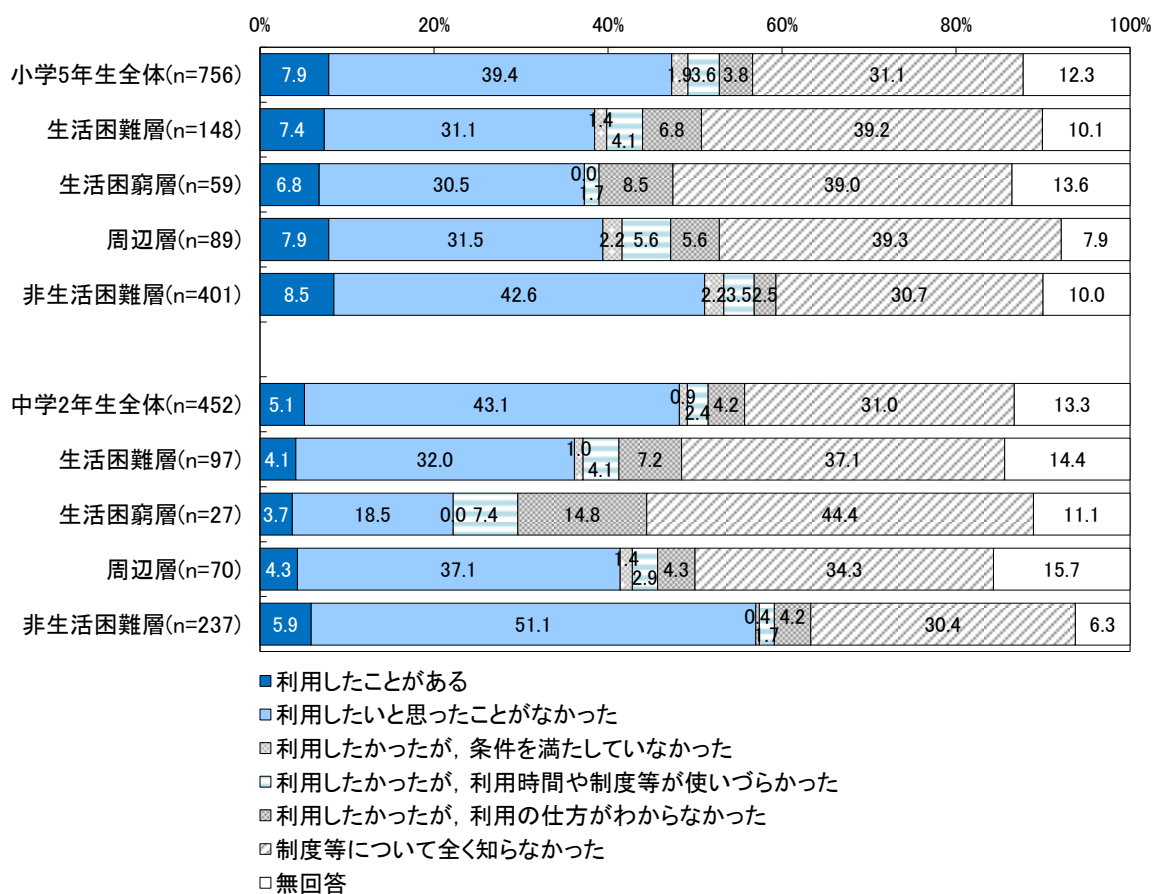
生活困難層では「制度等について全く知らなかった」と回答した人の割合が 29.7%であり、非生活困難層と比較すると高くなっている。

[中学2年生]

全体では「利用したいと思ったことがなかった」と回答した人の割合が 36.3%、「制度等について全く知らなかった」と回答した人の割合が 25.2%となっている。

生活困難層では「制度等について全く知らなかった」と回答した人の割合が 29.9%であり、非生活困難層と比較すると高くなっている。

ウ 学校以外で実施する学習支援



[小学5年生]

学校以外が実施する学習支援について、全体では「利用したいと思ったことがなかった」と回答した人の割合が 39.4%、「制度等について全く知らなかった」と回答した人の割合が 31.1%となっている。

生活困難層では「制度等について全く知らなかった」と回答した人の割合が 39.2%であり、非生活困難層と比較すると高くなっている。

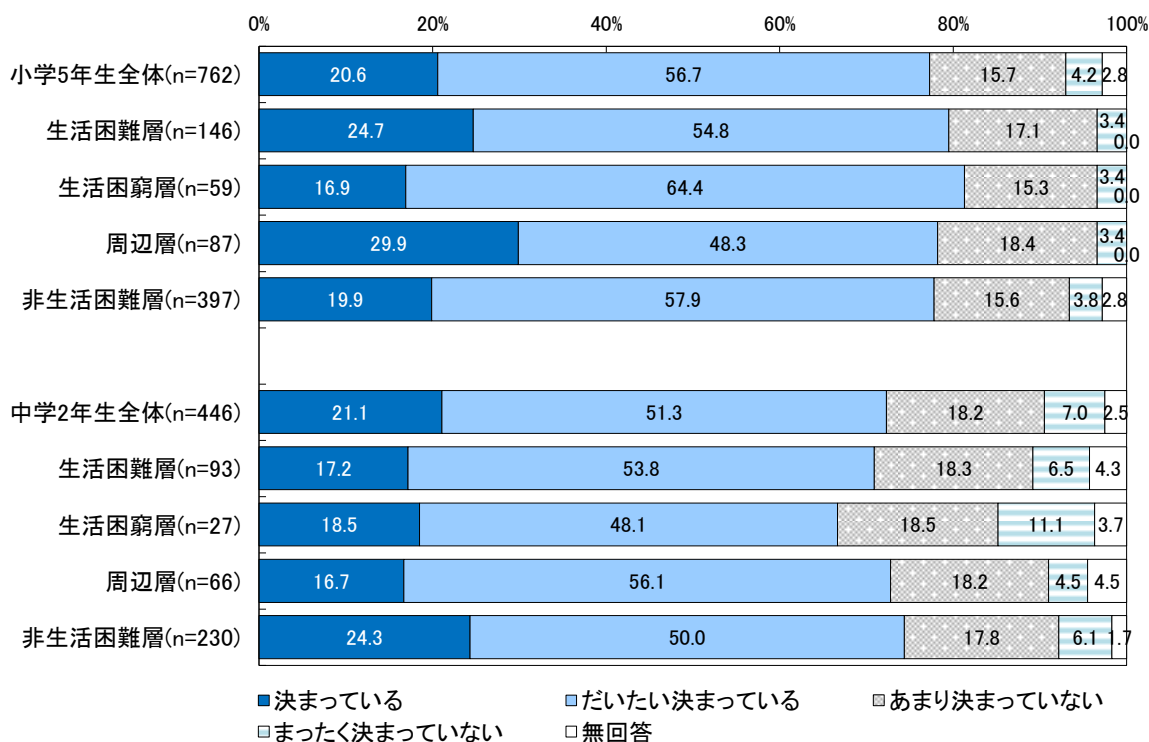
[中学2年生]

全体では「利用したいと思ったことがなかった」と回答した人の割合が 43.1%、「制度等について全く知らなかった」と回答した人の割合が 31.0%となっている。

生活困難層では「制度等について全く知らなかった」と回答した人の割合が 37.1%であり、非生活困難層と比較すると高くなっている。

3 子供の生活

①就寝時刻



[小学5年生]

就寝時刻について、全体では『決まっている』（「決まっている」＋「だいたい決まっている」）と回答した人の割合が77.3%、『決まっていない』（「まったく決まっていない」＋「あまり決まっていない」）と回答した人の割合が19.9%となっている。

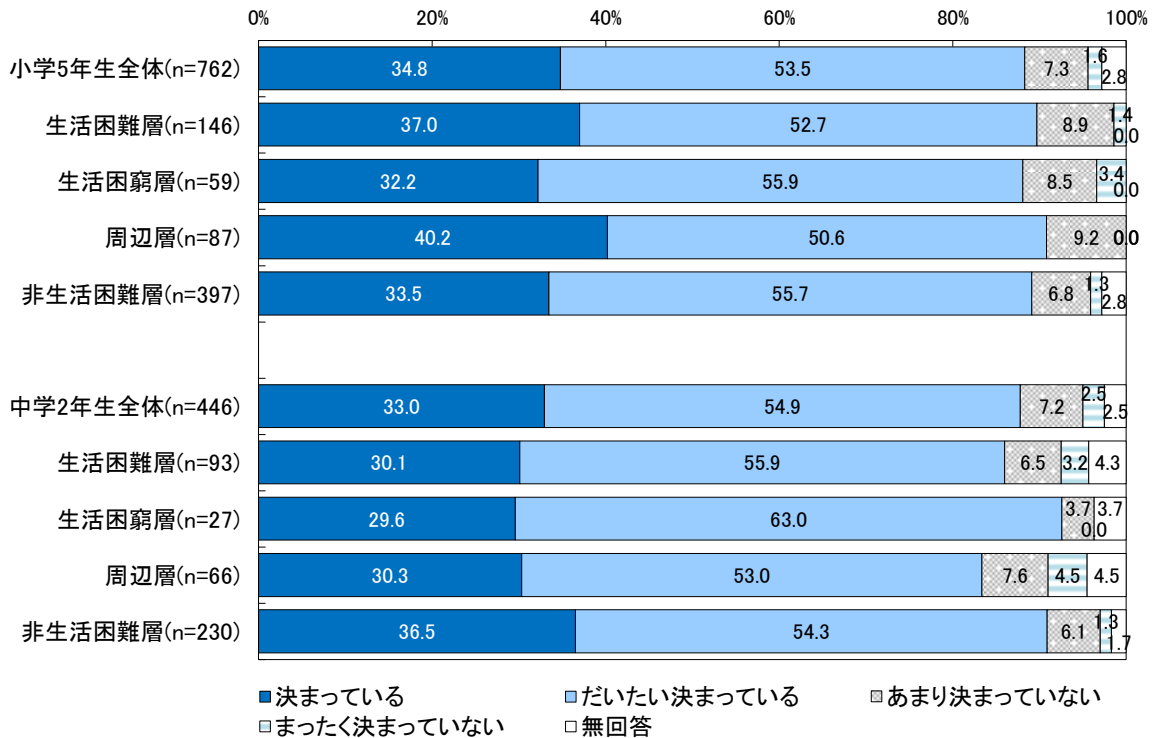
生活困難層では『決まっている』と回答した人の割合が79.5%であり、非生活困難層と比較すると大きな差はみられない。

[中学2年生]

全体では『決まっている』と回答した人の割合が72.4%、『決まっていない』と回答した人の割合が25.2%となっている。

生活困難層では『決まっている』と回答した人の割合が71.0%であり、非生活困難層と比較すると大きな差はみられない。

②起床時刻



[小学5年生]

起床時刻について、全体では『決まっている』（「決まっている」＋「だいたい決まっている」）と回答した人の割合が88.3%、『決まっていない』（「まったく決まっていない」＋「あまり決まっていない」）と回答した人の割合が8.9%となっている。

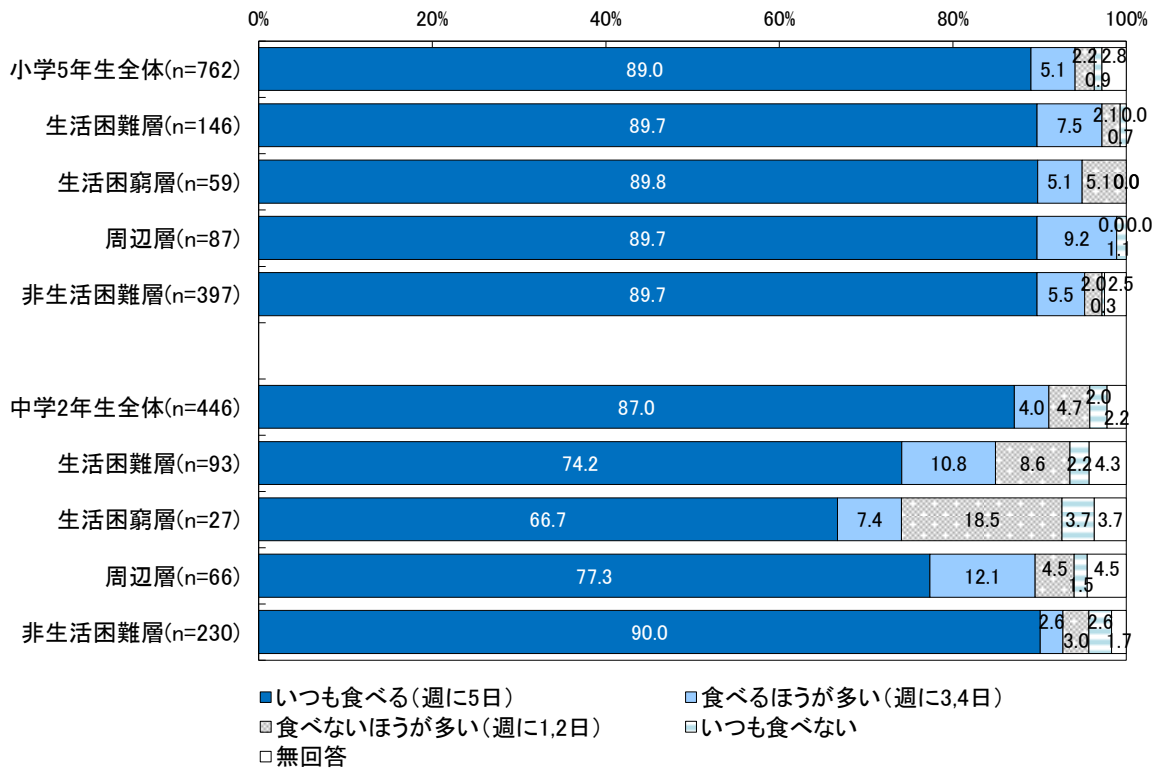
生活困難層では『決まっている』と回答した人の割合が89.7%であり、非生活困難層と比較すると大きな差はみられない。

[中学2年生]

全体では『決まっている』と回答した人の割合が87.9%、『決まっていない』と回答した人の割合が9.7%となっている。

生活困難層では『決まっている』と回答した人の割合が86.0%であり、非生活困難層と比較すると大きな差はみられない。

③平日における朝食の摂取状況



[小学5年生]

平日における朝食の摂取状況について、全体では「いつも食べる（週に5日）」と回答した人の割合が89.0%となっている。

生活困難層では「いつも食べる（週に5日）」と回答した人の割合が89.7%であり、非生活困難層と比較すると大きな差はみられない。

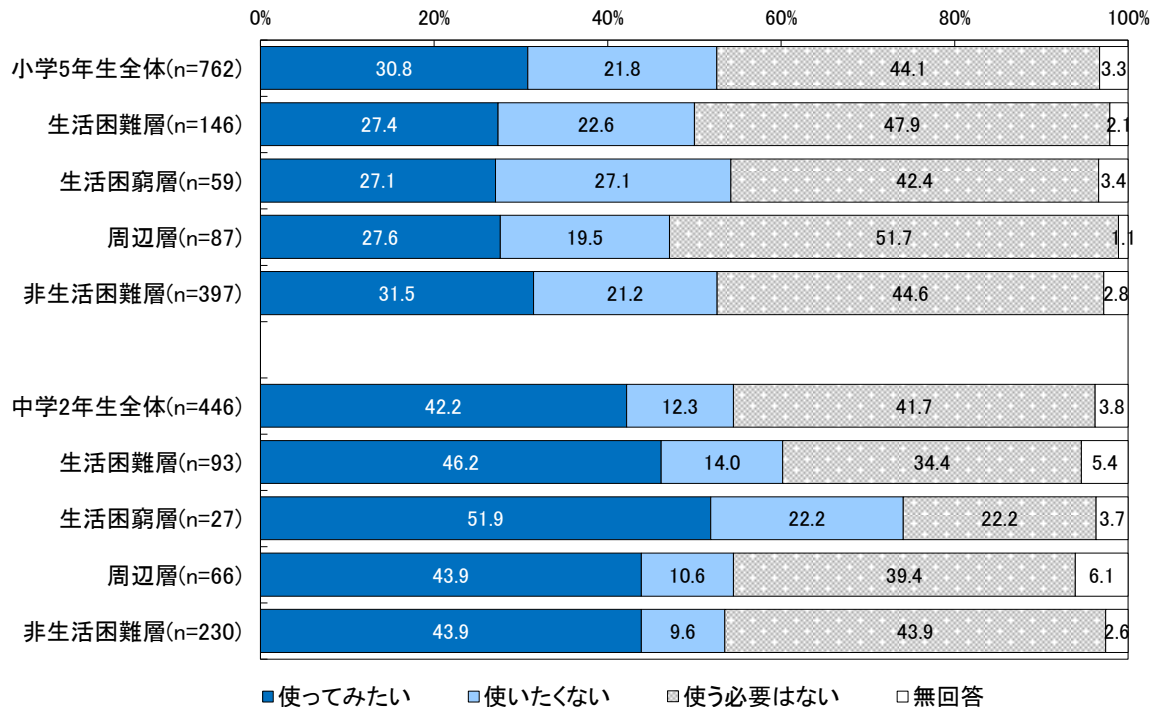
[中学2年生]

全体では「いつも食べる（週に5日）」と回答した人の割合が87.0%となっている。

生活困難層では「いつも食べる（週に5日）」と回答した人の割合が74.2%であり、非生活困難層と比較すると低くなっている。

④ 居場所関連など支援施策の利用意向

ア (家以外で) 平日の放課後に夜までいることができる場所



[小学5年生]

(家以外で) 平日の放課後に夜までいることができる場所の利用意向について、全体では「使ってみたい」と回答した人の割合が 30.8%、「使いたくない」と回答した人の割合が 21.8%、「使う必要はない」と回答した人の割合が 44.1%となっている。

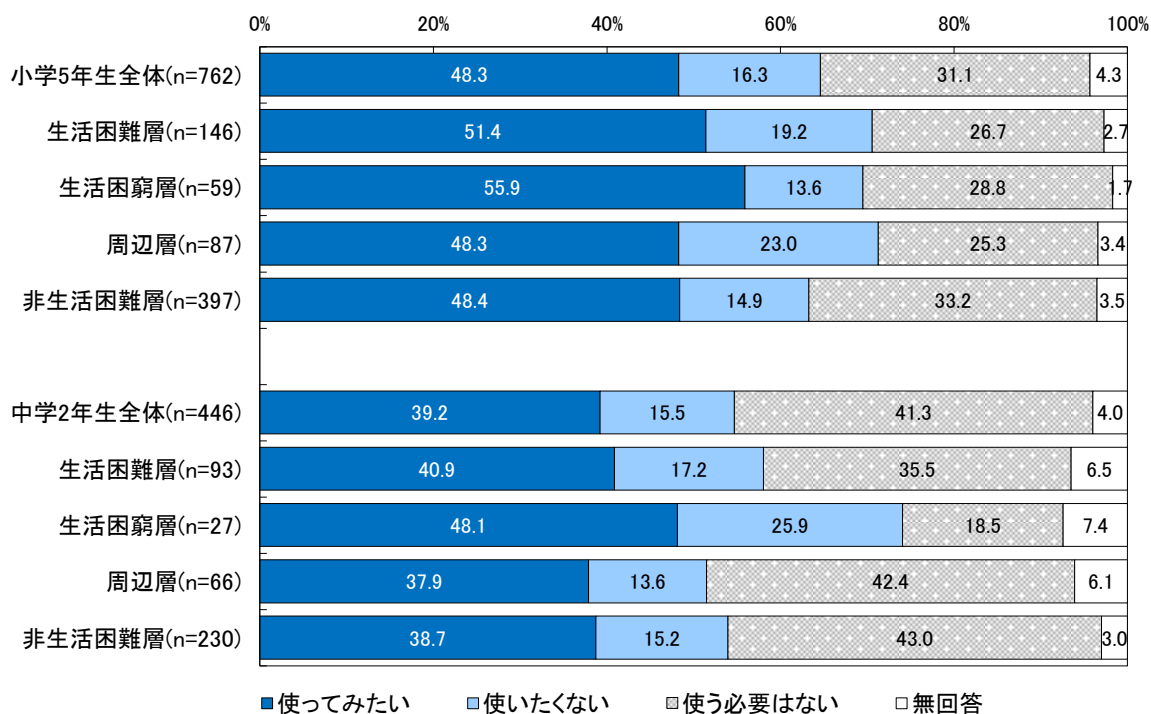
生活困難層では「使ってみたい」と回答した人の割合が 27.4%であり、非生活困難層と比較すると大きな差はみられない。

[中学2年生]

全体では「使ってみたい」と回答した人の割合が 42.2%、「使いたくない」と回答した人の割合が 12.3%、「使う必要はない」と回答した人の割合が 41.7%となっている。

生活困難層では「使ってみたい」と回答した人の割合が 46.2%であり、非生活困難層と比較すると大きな差はみられないが、「使う必要はない」と回答した人の割合は低くなっている。

イ 家の人がないとき、夕ごはんをみんなで食べることができる場所



[小学5年生]

家に人がいないとき、夕ごはんをみんなで食べることができる場所の利用意向について、全体では「使ってみたい」と回答した人の割合が48.3%、「使いたくない」と回答した人の割合が16.3%、「使う必要はない」と回答した人の割合が31.1%となっている。

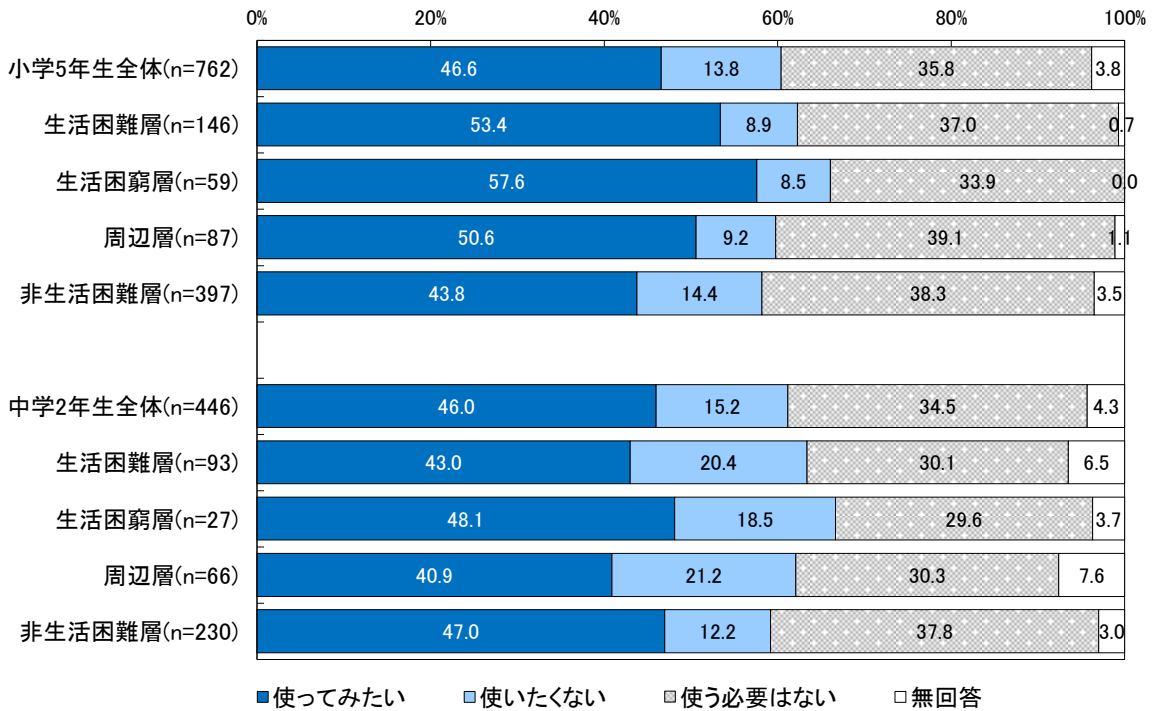
生活困難層では「使ってみたい」と回答した人の割合が51.4%であり、非生活困難層と比較すると大きな差はみられないが、「使う必要はない」と回答した人の割合は低くなっている。

[中学2年生]

全体では「使ってみたい」と回答した人の割合が39.2%、「使いたくない」と回答した人の割合が15.5%、「使う必要はない」と回答した人の割合が41.3%となっている。

生活困難層では「使ってみたい」と回答した人の割合が40.9%であり、非生活困難層と比較すると大きな差はみられないが、「使う必要はない」と回答した人の割合は低くなっている。

ウ (学校以外で) 勉強、進学、家族のことなど、なんでも相談できる場所



[小学5年生]

(学校以外で) 勉強、進学、家族のことなど、なんでも相談できる場所の利用意向について、全体では「使ってみたい」と回答した人の割合が 46.6%、「使いたくない」と回答した人の割合が 13.8%、「使う必要はない」と回答した人の割合が 35.8%となっている。

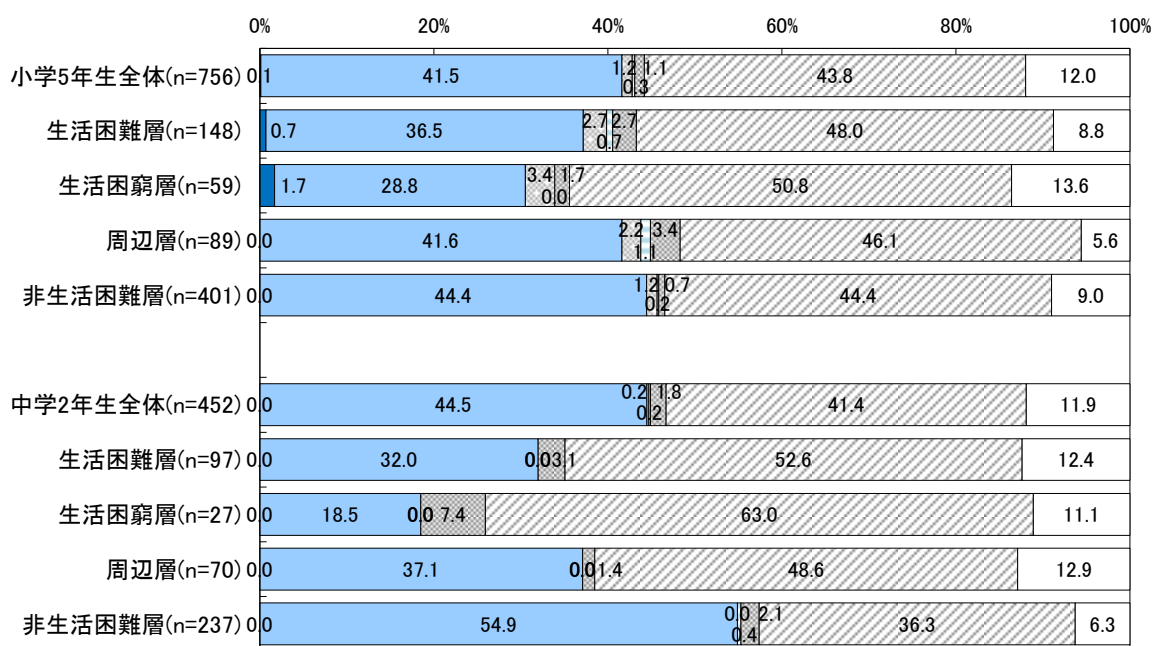
生活困難層では「使ってみたい」と回答した人の割合が 53.4%であり、非生活困難層と比較すると高くなっている。

[中学2年生]

全体では「使ってみたい」と回答した人の割合が 46.0%、「使いたくない」と回答した人の割合が 15.2%、「使う必要はない」と回答した人の割合が 34.5%となっている。

生活困難層では「使ってみたい」と回答した人の割合が 43.0%であり、非生活困難層と比較すると大きな差はみられないが、「使う必要はない」と回答した人の割合は低くなっている。

エ 子供食堂



- 利用したことがある
- 利用したいと思ったことがなかった
- 利用したかったが、条件を満たしていなかった
- 利用したかったが、利用時間や制度等が使いづらかった
- 利用したかったが、利用の仕方がわからなかった
- 制度等について全く知らなかった
- 無回答

[小学5年生]

子供食堂の利用経験について、全体では「利用したいと思ったことがなかった」と回答した人の割合が41.5%、「制度等について全く知らなかった」と回答した人の割合が43.8%となっている。

生活困難層では「利用したいと思ったことがなかった」と回答した人の割合が36.5%であり、非生活困難層と比較すると低くなっている。

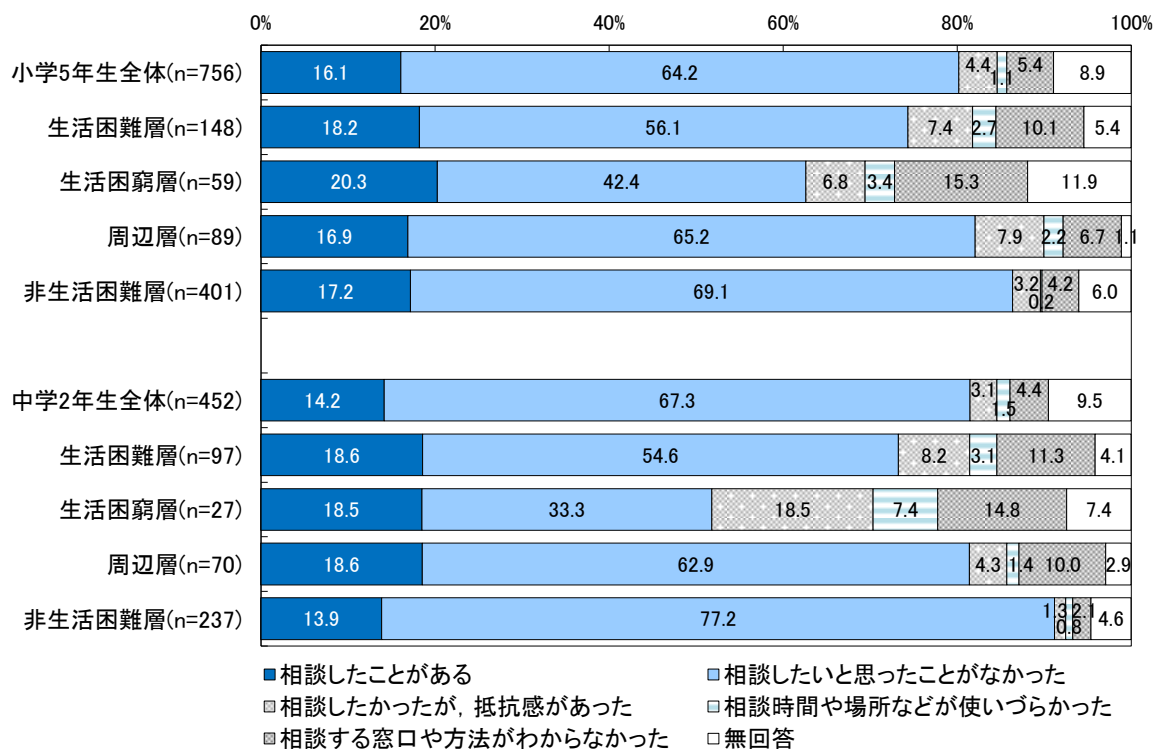
[中学2年生]

全体では「利用したいと思ったことがなかった」と回答した人の割合が44.5%、「制度等について全く知らなかった」と回答した人の割合が41.4%となっている。

生活困難層では「利用したいと思ったことがなかった」と回答した人の割合が32.0%であり、非生活困難層と比較すると低くなっている。

4 支援制度の利用状況

① 県・市町の窓口



[小学5年生]

県・市町の窓口への相談経験について、全体では「相談したことがある」と回答した人の割合が16.1%となっている。

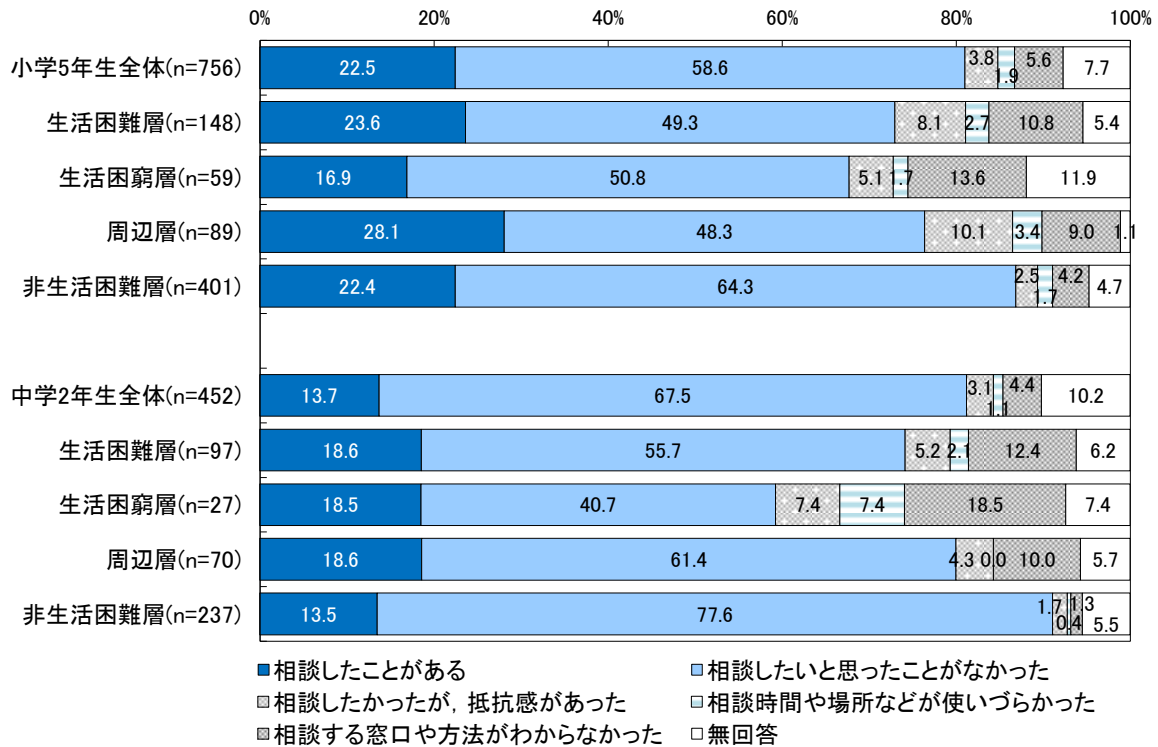
生活困難層では「相談したことがある」と回答した人の割合が18.2%であり、非生活困難層と比較すると大きな差はみられない。

[中学2年生]

全体では「相談したことがある」と回答した人の割合が14.2%となっている。

生活困難層では「相談したことがある」と回答した人の割合が18.6%であり、非生活困難層と比較すると大きな差はみられない。

② 地域子育て支援センター



[小学5年生]

地域子育て支援センターへの相談経験について、全体では「相談したことがある」と回答した人の割合が22.5%となっている。

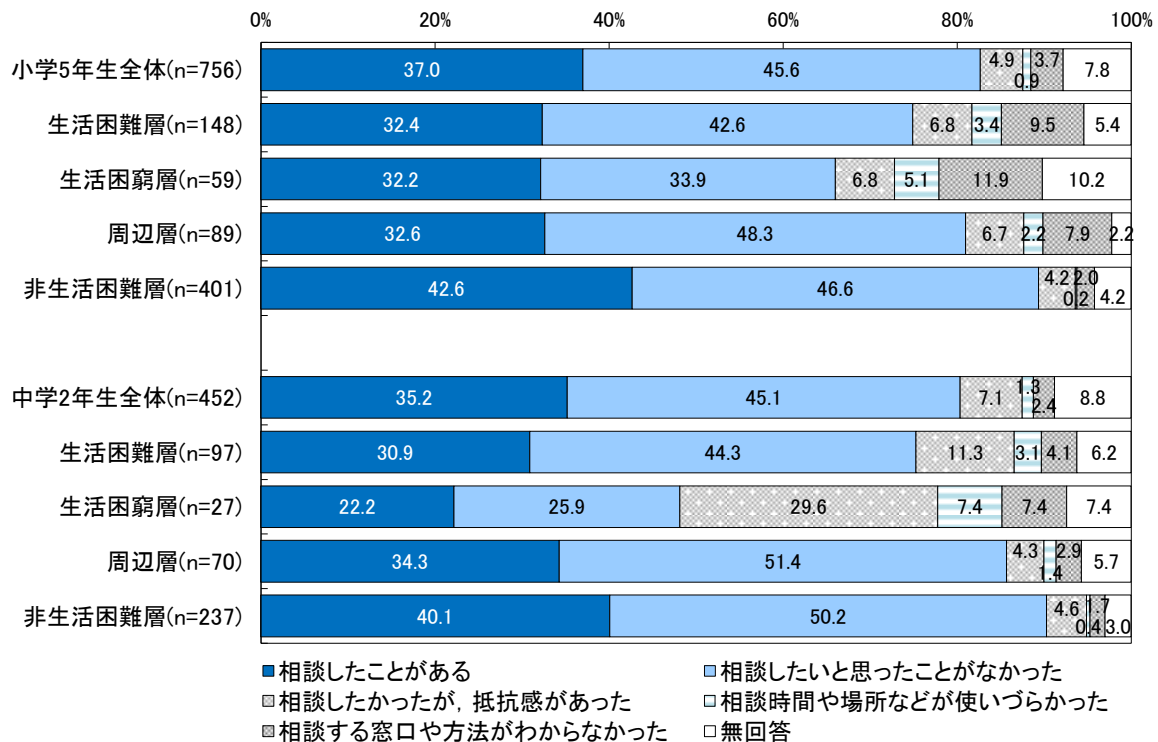
生活困難層では「相談したことがある」と回答した人の割合が23.6%であり、非生活困難層と比較すると大きな差はみられない。

[中学2年生]

全体では「相談したことがある」と回答した人の割合が13.7%となっている。

生活困難層では「相談したことがある」と回答した人の割合が18.6%であり、非生活困難層と比較すると高くなっている。

③ 学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなど



[小学5年生]

学校・保育所・幼稚園の先生、スクールカウンセラーなどへの相談経験について、全体では「相談したことがある」と回答した人の割合が37.0%となっている。

生活困難層では「相談したことがある」と回答した人の割合が32.4%であり、非生活困難層と比較すると低くなっている。

[中学2年生]

全体では「相談したことがある」と回答した人の割合が35.2%となっている。

生活困難層では「相談したことがある」と回答した人の割合が30.9%であり、非生活困難層と比較すると低くなっている。